

# ♥ いっしょが<sup>カ</sup>いいね

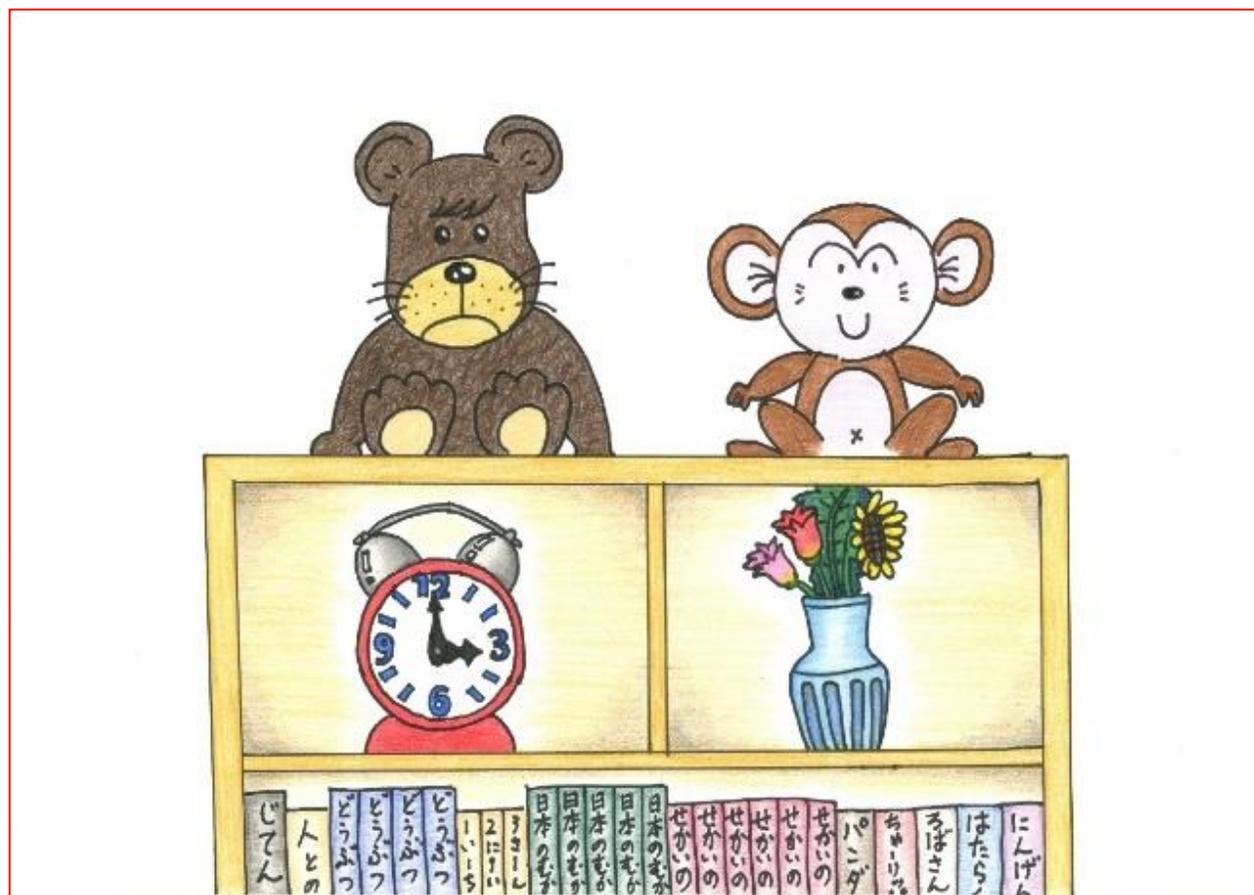


紙芝居「いっしょが<sup>カ</sup>いいね」はじまり はじまり



リサちゃんとおぬいぐるみのくまさんがはじめて出会ったのは  
まだリサちゃんが保育園（幼稚園）の時でした。  
お誕生日におかあさんがプレゼントしてくれました。

リサちゃんとおくまさんはいつでも一緒でした。  
遊ぶ時も、ご飯の時も、寝る時も・・・。



リサちゃんが保育園（幼稚園）に行っている間、くまさんはさるのぬいぐるみ、きーちゃんのとおりでお留守番をしていました。

くまさんはきーちゃんに言いました。

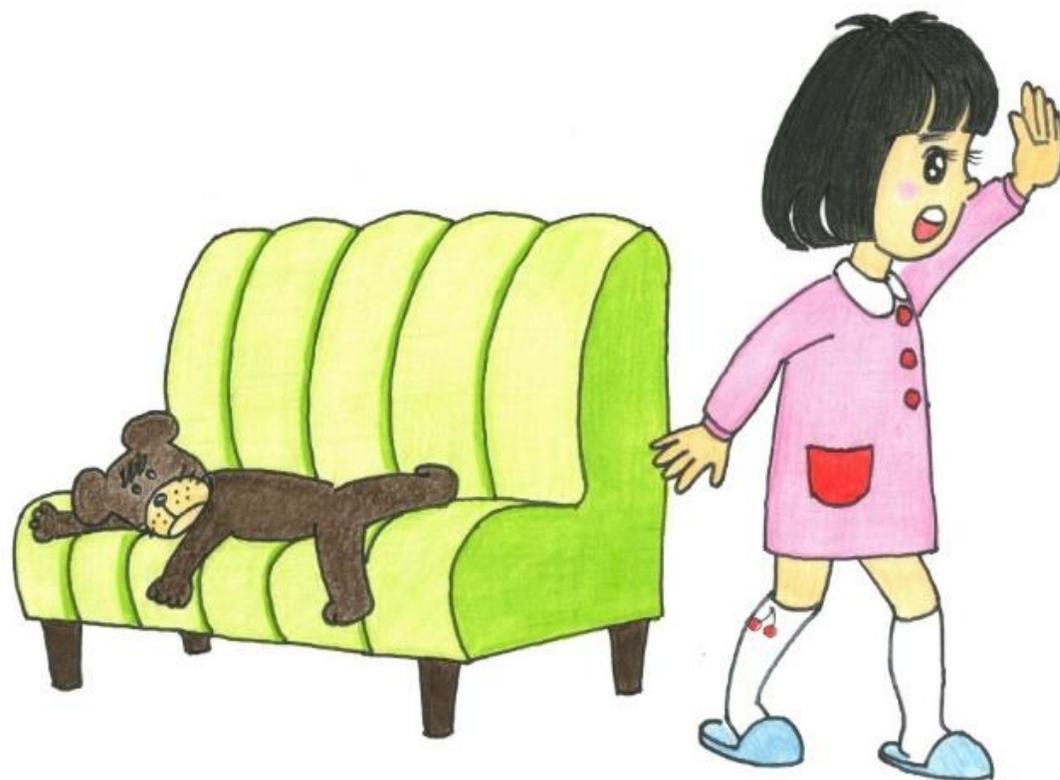
「リサちゃんがないのはさみしいけど、ここにいれば隣にきーちゃんもいるし、いつもの場所だからさみしくないよ」

きーちゃんは言いました。

「わたしはこのおうちに来て何年もここにいるから少し飽きてしまったけど、くまさんが来てからはとても楽しいよ。」



今では、リサちゃんは小学生。  
お友達とお外で遊ぶことも多くなりました。  
ある日曜日、リサちゃんはくまさんを抱っこして、  
ふたりで仲良くテレビを見ていました。  
その時“ピンポン”  
「リサちゃん 遊ぼう！」  
お友達から遊びに誘われました。

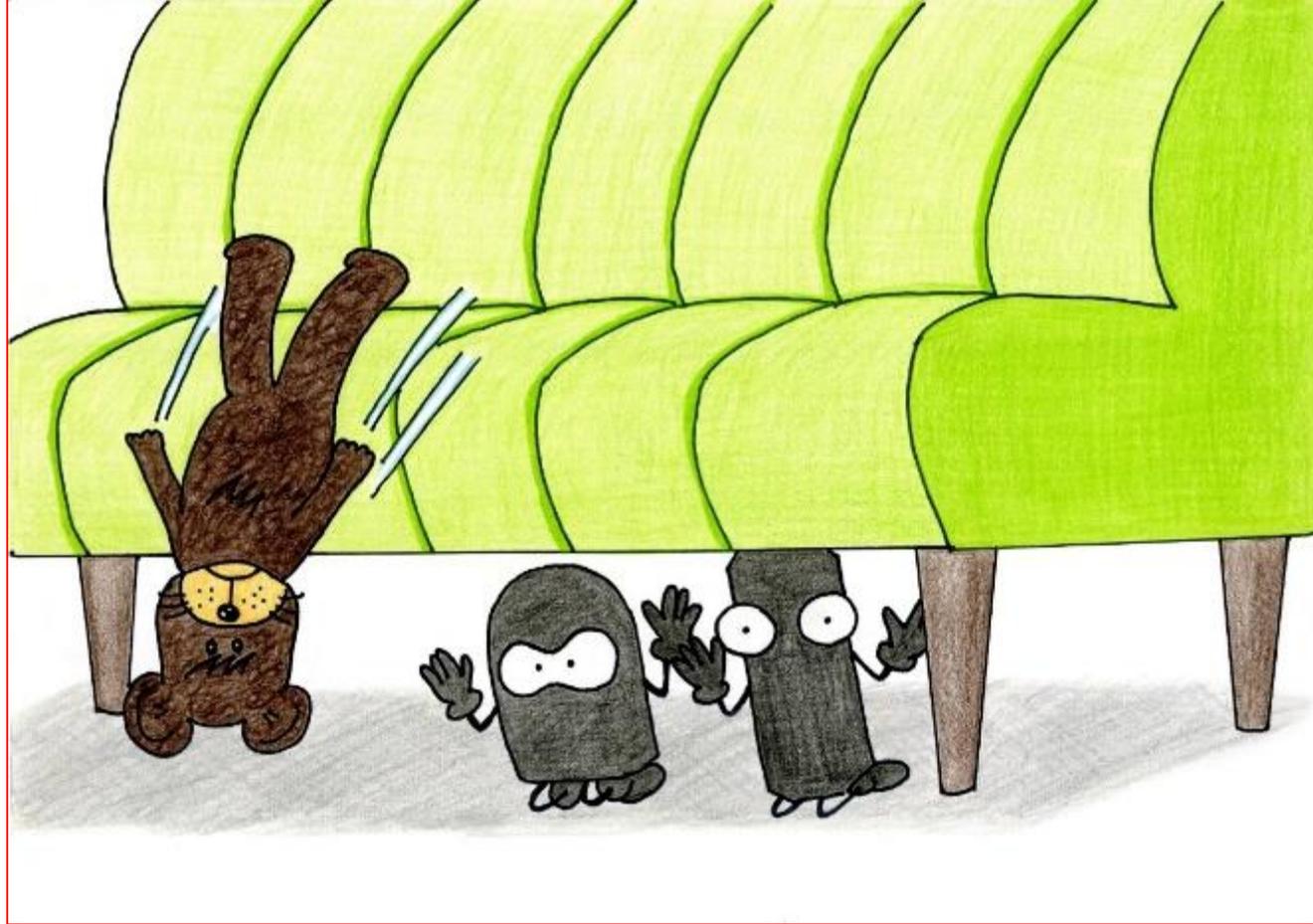


は～い！

「すぐに行くからまっていてね～」

リサちゃんはお友達と遊べるのがうれしくて！うれして！

くまさんをいつものところに戻さないでお椅子の上に置きっぱなしにして、お外に出かけてしまいました。



「行ってきまーす！」  
しばらくするとくまさんはお椅子の下に落ちてしまいました。  
わ〜〜〜こわいよ〜〜〜  
あれ？あれれ？

お椅子の下にはほこりをかぶって真っ黒になっただれかがいました。  
「だれ？そこにいるのはだれなの？」



そこにいたのは鉛筆君と消しゴム君でした。

「え〜。くまさんもここに落ちてしまったのかい？かわいそうに・・・。

ぼくたちはずっとずっと前にここに落ちてしまって、  
こんなにたくさんのほこりをかぶってしまっているんだよ。

そのうち使えなくなって“ごみ”になってしまうかもしれない。すごくすごく悲しいよ。」

くまさんは言いました。

「ぼくも見つけてもらえなかったらごみになってしまうのかな？

もう二度とリサちゃんと遊べないのかな？」



夕方になり、お外から帰ってきた  
リサちゃんはくまさんのところに行きました。  
ところが、きーちゃんの隣にいるはずのくまさんがいません。

「あれ？あれれ？くまさんがいないよ！  
くまさん！どこにいるの？くまさん！くまさ～～～ん！」



そのときお椅子の下で、ほこりをかぶったくまさんが言いました。  
「もうぼくもごみになってしまうんだ悲しいよ！」

鉛筆君たちはくまさんに言いました。

「ぼくたちはほこりだらけでごみになってしまうけど  
リサちゃんはきっとくまさんのことを探してくれるよよし助けを呼ぼう！  
りさちゃん！ここだよここだよ！くまさんはここにいるよ〜〜〜」  
リサちゃ〜〜〜ん！！



あっ！！こんなところにくまさんがいた！  
お椅子の下には  
ホコリだらけになってしまった、くまさんがいました。

「くまさん！さみしい思いをさせてごめんね！  
あれ！鉛筆君と消しゴム君もこんなところに」

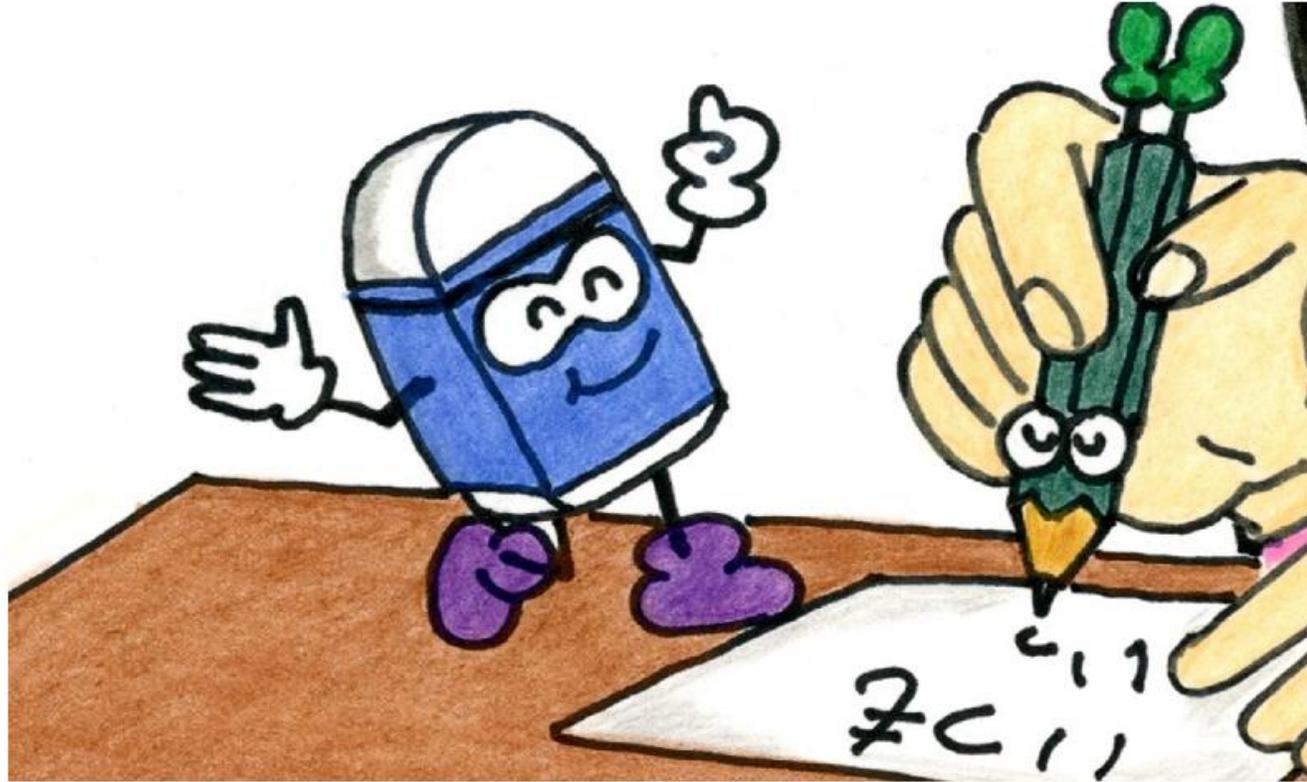


その様子を見ていたおかあさんが言いました。

「リサちゃんにはこの家があるように  
くまさんにも鉛筆君にも消しゴム君にもそれぞれのおうちがあるのよ！  
使い終わったり、遊び終わったら、ちゃんといつものところに戻してあげないと  
ほこりだらけになってごみになってしまうのよ」

おかあさんはお椅子の下にいた鉛筆君と消しゴム君を  
やさしく拭いてあげました。

「よかったわ！まだ使えるわね！」



助けてもらった鉛筆君と消しゴム君は  
ごみにならないで毎日元気にすごしています。  
りさちゃん、くまさん、きーちゃんも  
毎日、仲良く楽しく過ごしています。

そして、みんな同じ気持ちでいます。



それはね  
「やっぱり いっしょがいいね！」



おしまい